

平成24年度 事業報告

私たちが暮らす社会には、都市化や少子高齢化、価値観の多様化、経済情勢の停滞などにより、制度の谷間にある複合的な課題を抱えている人が少なくない。福祉へのニーズが高まる中、公的サービスだけでは全てを解決することはできず、より柔軟な福祉サービスの構築が求められている。

このような状況の中で、本会では、生活福祉資金貸付申請の急増による区社協の業務量増に対応するため、市社協に「生活福祉資金受付センター」を設置し、申請・受付業務を集約、専門相談員を置き、きめ細やかな対応を行うとともに、区社協職員の地域福祉業務への取り組みの強化につなげた。また、地域の見守り対象者の情報把握の支援や、緊急時の連絡先を記すカードの配付、生活課題を抱える個人に寄り添い、地域住民と連携して解決に向けて取り組む「地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業」に取り組んだほか、判断能力が不十分な人を住み慣れた地域で安心して生活できるよう支援する「成年後見支援事業」、高齢者の生きがいをづくりや社会参加を促進するための「介護支援ボランティア事業」等を実施した。

さらに、多様化・複雑化する福祉課題に適切に対応できる職員の育成等を図るための、「社協起動プラン」を策定した。

【重点項目】

- 1 見守り対象者情報の整理支援と緊急時連絡カード事業（※緊急時情報提供センター事業からの移行）
- 2 校区福祉座談会の開催
- 3 成年後見支援事業の実施
- 4 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業の実施
- 5 ときめき（授産）製品共同配送事業の検討
- 6 安心情報キット配付事業の実施
- 7 介護支援ボランティア事業の実施
- 8 社協起動プランの策定
- 9 生活福祉資金受付センターの設置

【重点項目】

1 見守り対象者情報の整理支援と緊急時連絡カード事業（※緊急時情報提供センター事業からの移行）（867千円）

(1) 見守り対象者情報の整理支援

地域福祉支援員（区社協職員）が、希望する校区に出向き、校区社協をはじめとした関係団体に、地域で見守りが必要な方などの情報について地域団体相互での共有を図るよう働きかけや、名簿の整理・作成（データ化）などの支援を行った。

〔実施校区〕 早良区：高取、脇山 西区：愛宕、下山門

(2) 緊急時連絡カード事業（※緊急時情報提供センター事業からの移行）

本人の緊急連絡先を記入した「緊急時連絡カード」を作成し、消防・病院・警察などが緊急連絡先に連絡できるよう、希望者に配布を行った。

〔配布数〕 39,748枚

2 校区福祉座談会の開催（594千円）

市・区社協が、校区社協と共働で、自治会・町内会や民生委員・児童委員などの地域団体や関係者等に参加を呼びかけ、校区全体の福祉活動の取り組みの現状や課題等について主体的に話し合うことで、福祉のまちづくりに向けた取り組みや連携を進めた。

〔実施校区〕 23校区

〔主なテーマ〕

- ・地域活動における効果、問題点や課題
- ・校区における高齢者支援のあり方
- ・孤独死とふれあいネットワークについて考える
- ・支え合いマップを作ろう
- ・校区の中で私たちにできること

〔延べ参加人数〕 1,266人

3 成年後見支援事業の実施（461千円）

(1) 普及・啓発活動

成年後見制度の普及・啓発を図るため、市民に対して出前講座を行った。

実施日	対象者	人数
平成24年 4月15日（日）	市民後見人養成講座受講者 (NPO 成年後見制度市民後見人養成・活動支援ネットワーク主催)	15
7月3日（火）	小規模多機能型居宅介護事業所職員・利用者	18
7月12日（木）	早良区民生委員・児童委員協議会高齢者部会	58
8月23日（木）	福岡市障がい者就労支援センター職員	23
9月20日（木）	東区第10地区民生委員・児童委員協議会	14
10月20日（土）	東区若宮公民館講演会	50
11月6日（火）	マンション入居者自主学習会	25
12月20日（木）	小規模多機能型居宅介護事業所運営推進会議	10
平成25年 2月2日（土）	成年後見制度入門講座 (NPO 法人市民後見センターふくおか主催)	30
2月16日（土）	南区東花畑校区社会福祉協議会研修会	60
3月27日（水）	博多区那珂校区社会福祉協議会研修会	50

※講座内容：「成年後見における社協の役割」「日常生活自立支援事業と成年後見制度」

(2) 法人後見事業

親族や専門職による後見人が得られにくい人に対して、本会が後見人等に就任するため、成年後見運営委員会を組織し、家庭裁判所から法人として後見人等の選任を受け、後見業務を行った。

〔後見等受任件数〕 11件

〔成年後見運営委員会〕

	開催日	審議件数
第1回	平成24年 7月25日 (水)	3
第2回	9月19日 (水)	5
第3回	11月19日 (月)	5
第4回	平成25年 1月18日 (金)	2
第5回	3月18日 (月)	2

(3) 市民後見人養成事業 (市委託事業)

成年後見制度の担い手として地域住民の視点で支援を行う「市民後見人」を養成するための研修事業を福岡市の委託事業として実施した。なお、研修修了者を本会が実施する法人後見事業の履行補助者 (=市民参加型後見人) として活用するため、「市民参加型後見人バンク」を設置し、希望者を、福岡市の推薦を得てバンクへの登録を行った。

〔実施期間〕 平成24年10月11日(木)～平成25年2月26日(火) (全13日間)

〔会場〕 市民福祉プラザ他

〔受講者数〕 50人 (一般公募で応募があった168人より抽選で決定)

〔修了者数〕 48人

〔市民参加型後見人バンク登録者数〕 44人

4 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業 (市委託事業) (17,346千円)

福岡市の委託事業 (平成23～25年度) として、5人の専任職員を、福岡市が選定した、団地、戸建て等居住形態の異なる市内7校区1地区のモデル校区に配置し、地域の特性に合わせた高齢者等の見守りの仕組みづくりに向けて、校区活動者等の支援を行った。また、対応が困難な個別ケースへ活動者と一緒に関わるなど、個別支援にも取り組んだ。

校区・地区名	成果
〔東区〕 城浜校区 (公営団地)	<ul style="list-style-type: none"> 活動者による福祉座談会の開催 (年11回)。 校区福祉相談会の開催 (個別相談: 35件、活動相談: 18件) 転入者の孤立化防止のための「転入者ガイド」、住民が緊急連絡先を町内に届け出る「見守りカルテ」、住民自ら町内役員に不在を伝える「不在にしますカード」など、地域ぐるみでの見守り活動に役立つツールの提案・作成し、活動者の協力を得て住民へ活用を呼びかけた。 棟ごとに見守り対象者を可視化した「つながりマップ」の作成支援。組長を中心に町内清掃時・共益費徴収時に声かけ・安否確認を行う仕組みを構築。 地域と関係の深い医療機関・配達関係業者・商業施設等が住民の異変発見時に地域活動者に連絡する協力体制の構築。
〔南区〕 東若久校区 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> 対象者や見守り状況を地図上に表示する「見守りマップ」を町ごとに作成(24年度新たに11町で作成し全14町で達成)し、対象者や見守り協力者の掘り起こし。 見守りの方法・ポイントや、各町での活動の進め方を示した「見守りマニユ

	<p>アル」を作成。活動者が見守り活動について確認・共有でき、活動上の課題や悩みを解決につなげるツールとなっている。他校区でも活用事例あり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルの内容や見守りに関する研修会を実施（188人参加）。若い世代の関心も高まるきっかけとなり、その後、30～40代の青育連の委員を対象とした高齢者支援・見守りの研修会実施につながった。 ・各町の見守り実施状況を確認するため、活動者によるワークショップを開催。（1回）各町の活動者自身が、現状の課題や今後の目標を確認することができた。
<p>[南区] 東花畑校区 (戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・活動者によるワークショップを開催（4回）。マップを活用し災害時と平常時がリンクした見守り・支援体制づくりを各町で検討。対象者と見守る人（支援する人）との組み合わせ決めを行った。 ・校区の高齢者等支援の仕組みづくりを検討するため、各団体の代表者による会議（「地域福祉“5愛”推進会」）を開催（年12回）。 ・要援護者に対するニーズ調査を実施。校区における生活支援のニーズを活動者と共有し、生活支援グループ立ち上げに向けた検討会議を実施。
<p>[城南区] 城南校区 (UR団地・戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・3町内でのふれあいネットワーク立ち上げ支援。見守りに役立つツールの提案・作成。 ・個別訪問見守り活動（ペアリングによる高齢者宅訪問活動）のモデル町内による実施、課題検証。 ・校区安心・安全マップ製作委員会を立ち上げ、マップ作製のためのワークショップを企画・実施（年3回）。 ・産業カウンセラー有志による傾聴サロンの立ち上げ支援。 ・孤立問題に取り組む企画を実践する孤立ゼロ・プロジェクトの実践。高齢者宅訪問事業の実施と課題検証。 ・NPOや地域活動者による孤立防止の啓発イベント「レインボーフラッグ作製」の企画・実施。 ・高齢者の居場所（健康麻雀クラブ、町内茶話会など）の立ち上げ支援、福大看護学生との協働によるサロン実施。
<p>[城南区] 金山団地 (UR団地)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のふれあいネットワークの重層化を目指し、見守りネットワークを組織構築するため対象者・活動者のマッピング。 ・見守り活動者を確保するために住民に協力を依頼、町内の青少年連合会や子ども会の会員の協力者を獲得し、若年層の見守り活動者を巻き込むネットワークを構築。
<p>[城南区] 全域</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・CSW指定地域を含む区内全域において、西日本新聞エリアセンターと西日本新聞社との見守り連携モデル事業の協定を行い、開始。 ・見守りを行う配達員等を対象としたハンドブックを中村学園女子高等学校の学生と協働で作製。
<p>[早良区] 大原校区 (UR団地・戸建て)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校区を3ブロックにわけ、ブロックごとに課題を共有し、今後の地域活動につなげるための福祉座談会を企画・提案し実施（年5回）。 ・戸建て1地区では、75才以上の方への安心情報キットの配付に伴い、名簿整理を支援した。今後は、ふれあいネットワークの対象者の見直しを検討している。 ・団地内の見守りを進めるため「団地ふれあいサロン」のチラシやポスターの作成を支援し、利用者自身にも口コミで利用者を増やす役割があることを訴え利用者ボランティアの増加につながった。 ・モデル棟で住民への見守り希望訪問調査を提案し、棟委員・階段当番による見守り活動の立ち上げについて検討中である。

〔西区〕 西陵校区 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・町内に分かれて協議を行うスタイルで校区福祉座談会を企画・提案し実施(年3回)。 ・座談会で出た各町の課題に合わせた解決案の企画・提案を行い、「お助け隊」(1町)、「ふれあいサロン」(1町)、「見守り活動」(2町)、「不在にしますカード」(2町)が活動開始。
〔西区〕 周船寺校区 (戸建て)	<ul style="list-style-type: none"> ・校区社協の担い手不足解消のために、地域の方と協力しボランティア講座を企画し実施。受講者のうち地域活動未経験者8人が校区社協事業のボランティアとして活動を始めた。 ・ボランティア講座受講者による「絵手紙の会」を組織化。地域、福祉施設等でのボランティア活動なども行うボランティアグループとして立ち上げた。 ・ふれあいネットワーク活動と企業等社会資源との連携として、業務中に住民の異変を発見した場合にふれあいネットワークへつなぐ仕組みを構築。西日本新聞エリアセンター、ヤクルト、JA、郵便局と連携が始まった。 ・ふれあいネットワーク対象者の個人情報共有を円滑に進めるために、地域の活動者と協議し、「ふれあいネットワーク活動個人情報の手引き」を作成。

※モデル校区指定時期：平成23年8月(城南区のみ平成24年6月)

※東若久校区・東花畑校区は、南区役所の「地域福祉ネットワークづくりモデル事業」と協働で取り組み。

(1) 地域活動支援の実績

	地域活動に関する相談	地域会議への参加	地域行事への参加	連絡調整	情報交換
件数	179	744	310	501	662

(2) 個別支援の実績

	個別ケースに関する相談	訪問対応	ケース会議への参加	連絡調整	他機関へのつなぎ
件数	205	322	22	783	85

(3) モデル事業評価委員会の開催

地域福祉ソーシャルワーカーの機能やモデル事業の効果等について検証・評価を行うため、学識経験者や地域団体役員等の代表者等で構成される評価委員会(全4回予定)を開催した。

開催日	主な議題
第1回 平成24年 11月20日(火)	<ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長選任 ・委員会設置要綱について ・委員会スケジュールについて ・モデル事業の概要について ・モデル校区(6校区)概要について
第2回 平成25年 2月18日(月)	<ul style="list-style-type: none"> ・モデル事業における見守りの定義について ・城南区モデル事業について ・モデル校区(6校区)の取り組み進捗状況について

5 ときめき（授産）製品共同配送事業の検討 （0千円）

障がい者等授産施設の製品を配送・販売する仕組みづくりや、徒歩圏内にスーパーや商店がなく、日常的な買い物に困難を抱えている方が多い買い物困難地域への出店などの販路拡大について、民間障がい施設協議会とともに検討した。

その結果、買い物困難については、近隣にスーパーや商店が無い、店は徒歩圏内にあるが道路の勾配が急である、足腰が弱く外出が困難である、などの理由があることがわかったが、日常的な買い物は生鮮食品が中心であり、授産施設の販路拡大と買い物困難者へのニーズ対応を組み合わせることが難しいことから、本事業に代わり、買い物困難者を支援するための「買い物支援ハンドブック」を全区で作成することとした。

また、授産製品の販路拡大については、民間障がい施設協議会が中心となり施設が相互に連携、協働しながら開拓していく中での、協力・支援を行っていくこととした。

6 安心情報キット配付事業の実施（市委託事業） （15,594千円）

ひとり暮らしの高齢者や障がい者など、地域での見守りや災害時に避難支援が必要な人を対象に、緊急時や災害時など緊急事態の備えとなるよう、「安心情報キット」（緊急連絡先やかかりつけ医などを記載した用紙を入れた筒状の専用容器（キット））の配付を行った。

〔配付状況〕

区	東	博多	中央	南	城南	早良	西	市社協	合計
校区数	28	22	13	25	8	23	19	—	138
配付数	7,688	3,328	3,914	4,908	3,032	4,178	3,601	9	30,658

〔効果〕

- ・民生委員やふれあいネットワークボランティアなど、地域の協力により配付を行った結果、見守り対象者増につながった。
- ・キット配付を通して、見守り活動（ふれあいネットワーク活動が）11校区52町で新たに始まった。

7 介護支援ボランティア事業の実施（市委託事業） （6,695千円）

65歳以上の方が介護保険施設でボランティア活動を行うとポイントが付与され、たまったポイントを換金等できる「福岡市介護支援ボランティア事業」を平成25年2月に開始した。その参加等を募る、受入施設や個人向けの説明会を開催した。その他、地元テレビ局の番組を通して事業説明や広報を行った。

（1）受入施設向け説明会

日 程	場 所
平成24年7月11日（水）	市民福祉プラザ
7月21日（土）	市民福祉プラザ
8月9日（木）	東市民センター
8月24日（金）	西市民センター
8月30日（木）	早良市民センター
9月12日（水）	博多市民センター
9月19日（水）	城南区保健福祉センター
9月27日（木）	南市民センター

(2) 個人向け説明会

日 程	場 所
平成24年10月 3日 (水)	東市民センター
10月 4日 (木)	中央市民センター
10月11日 (木)	市民福祉プラザ
〃	西市民センター
10月18日 (木)	早良市民センター
10月25日 (木)	城南市民センター
11月 1日 (木)	南市民センター
11月 8日 (木)	博多市民センター

(3) 登録状況

〔受入施設〕 285か所

〔個人ボランティア〕 808人

(4) 活動実績

〔2月〕 74施設、99人 (延べ活動回数489回)

〔3月〕 93施設、289人 (延べ活動回数678回)

8 社協起動プランの策定

(1,204千円)

多様化・複雑化する福祉課題に柔軟かつ適切に対応していくことができるよう、業務の効率化や人材育成、職員の専門性の向上を図るとともに、その支援体制の整備を行うための「起動プラン」を策定した。

策定にあたっては、外部委員6名と事務局である福岡市社協で構成する「起動プラン検討委員会」を設置し、4回委員会を開催し、検討を重ねた。検討委員会から提案された「起動プラン検討委員会報告書」をもとに、福岡市社協で、起動プランとして策定した。

日 程	内 容
平成24年 3月29日 (木)	市社協理事会・評議員会 ○事業計画にて起動プラン策定の趣旨説明
5月10日 (木)	起動プラン第1回検討委員会 ○福岡市社会福祉協議会の現状と課題
5月28日 (月)	市社協理事会・評議員会 ○起動プラン策定経過 (報告)
6月28日 (木)	起動プラン第2回検討委員会 ○福岡市社会福祉協議会の目指す方向性
8月 8日 (水)	起動プラン第3回検討委員会 ○起動プラン報告書 (案)
9月25日 (火)	起動プラン第4回検討委員会 ○起動プラン報告書 (案)
11月 9日 (金)	市社協理事会 ○起動プラン検討委員会報告書の説明
平成25年 3月28日 (木)	市社協理事会・評議員会 ○起動プラン策定 (議案)

9 生活福祉資金受付センターの設置

(24,498千円)

従来は各区社会福祉協議会で実施していた貸付の相談や申請受付業務を、福岡市社会福祉協議会(市民福祉プラザ)に集約し、専門の相談員6人を配置してきめ細かな対応を行った。

また、高齢者や障がい者の方々に対しては、各区社会福祉協議会や公民館、集会所などにて出張相談を行った。

〔相談件数〕

区分	総合支援 資金	福祉資金			教育支援 資金	不動産担保 型生活資金	臨時特例 つなぎ	その他	合計
		生業費	生業以外	緊急小口資金					
電話相談	2,393	105	1,933	1,062	1,591	135	76	1,797	9,092
面接相談	1,633	72	1,085	621	1,107	68	36	710	5,332
出張相談	0	0	35	4	4	1	0	0	44
申請件数	392	1	312	230	312	4	24	0	1,275

〔上記出張相談の区別内訳〕

東 区	博多区	中央区	南 区	城南区	早良区	西 区	合 計
※5件	9件	2件	13件	※7件	4件	※4件	44件

※区別内訳のうち各区社会福祉協議会窓口以外での出張相談

東 区：1件 城浜団地集会所(CSWによる福祉相談会)

城南区：1件 堤公民館

西 区：1件 女原集会所(CSWと地区民生委員との相談より)

【事業項目】

1 地域の支え合い活動の充実を図ります

住み慣れた地域で、誰もが健やかに安心して暮らせる「ともに支えあう福祉のまち」をめざし、校区社会福祉協議会を中心とした地域福祉活動を推進した。

また、校区社会福祉協議会や民生委員・児童委員など、地域の見守り活動を行う組織への相談・支援を行う地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業を実施した。

(1) 校区社協とともに進める福祉のまちづくり (58,533千円)

市民の福祉ニーズに対応した地域福祉・在宅福祉活動を一層促進するため、その推進役である校区社会福祉協議会の充実・強化に向け支援した。

① 校区社協への活動支援（共同募金配分事業）

区社会福祉協議会と共働し、校区社協の実情にあった福祉活動を推進するために共同募金配分金を財源とし、事業運営や資金を支援した。

〔助成額〕 53,420,306円

② 校区福祉座談会の開催（再掲）（P. 2）

③ 校区社協広報活動への支援

校区社協が住民の福祉に対する理解と関心を高めることを目的に行う広報紙発行事業を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

〔助成額〕 5,044,205円

区	東	博多	中央	南	城南	早良	西	合計
助成校区数	25	16	9	23	11	24	21	129

(2) 住民の主体的参加と相互に支え合うまちづくりの推進 (39,536千円)

地域における支えあいの仕組みづくりを進めていくために、ふれあいネットワークや、ふれあいサロン、ふれあいランチ、校区広報紙発行等の地域住民による自主的な福祉活動を支援した。

① ふれあいネットワーク活動の拡充

一人暮らしの高齢者など、援助を必要とする人々が地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民や関係機関が連携して、日常的な見守りなどの支援体制づくりに取り組む「ふれあいネットワーク活動」の更なる充実に向け、区社会福祉協議会とともに活動を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

〔助成額〕 16,932,015円

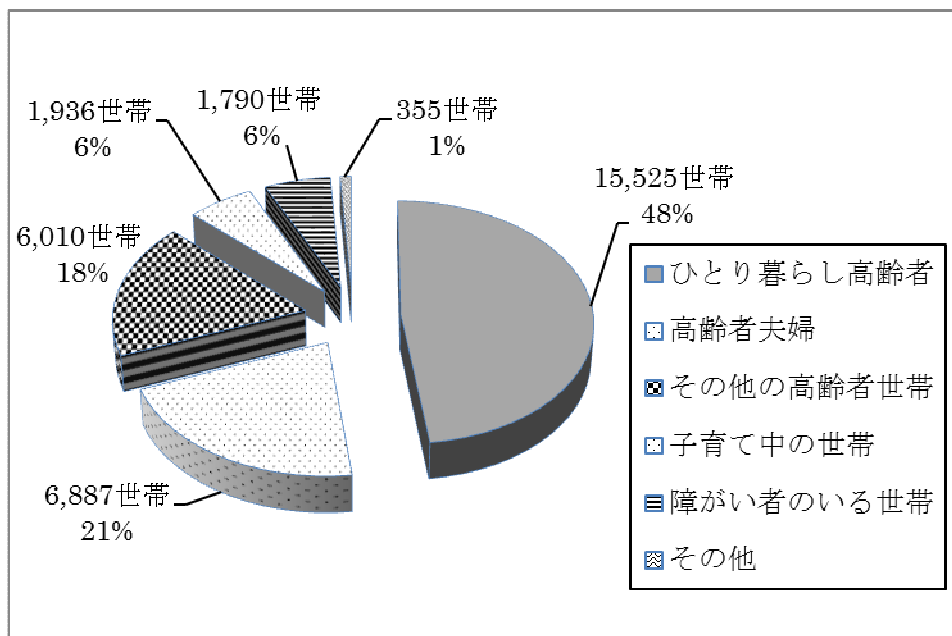
〔活動状況〕

(平成25年3月末現在)

区	校区数	助成校区数	実施校区数	助成自治会数	実施自治会数	対象世帯数	ボランティア数
東 (前年比)	27	25	25	335 (7)	341 (13)	7,136 (1,197)	2,251 (165)
博多 (前年比)	22	21	21	310 (4)	310 (4)	6,749 (377)	1,380 (90)

中央 (前年比)	14	12	13	265 (9)	289 (33)	4,283 (△1,626)	1,351 (35)
南 (前年比)	25	24	24	280 (△2)	280 (△2)	4,109 (△1,029)	1,721 (39)
城南 (前年比)	11	11	11	160 (5)	160 (5)	2,491 (184)	1,335 (△24)
早良 (前年比)	24	16	18	168 (△14)	193 (11)	3,543 (177)	1,151 (△43)
西 (前年比)	23	18	19	130 (1)	136 (7)	4,192 (△357)	1,446 (△71)
合計 (前年比)	146	127	131	1,648 (10)	1,709 (71)	32,503 (△1,077)	10,635 (191)

〔ふれあいネットワーク事業対象世帯内訳〕



〔活動内容内訳〕

活動内容		世帯数
安否確認・声かけ・話相手		31,714
保健福祉サービスの紹介		2,419
生活の支援	ゴミ出し	614
	電球の取り替え	112
	買物代行・薬取り	228
	家事援助（掃除・洗濯・炊事など）	113
	外出援助（通院・買物付添など）	208
	急用時のこどもの送り迎え・預かりなど	22

(ア) ふれあいネットワーク活動アンケート調査の実施

今後の活動支援の基礎資料とするため、現在ふれあいネットワーク活動を実施しているネットワーク班を対象にアンケート調査を実施した。

〔調査方法〕 直接配布、直接回収
 〔調査時期〕 平成24年9～12月
 〔調査対象〕 ふれあいネットワーク活動を行っている班
 〔配布数〕 1,641班
 〔有効回収数〕 1,350班 (有効回収率: 82.3%)

(イ) ふれあいネットワークマニュアルの作成

ふれあいネットワーク活動を立ち上げる際の参考としてふれあいネットワーク活動のマニュアルを作成した。

② ふれあいサロン活動の拡充

一人暮らしや身体機能の低下等により、家に閉じこもりがちな高齢者等の孤独感の解消や介護予防等を目的として、地域のボランティアが公民館や集会所などで、レクリエーションや、仲間づくり・交流・ふれあいの場を広げる「ふれあいサロン活動」の拡充を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

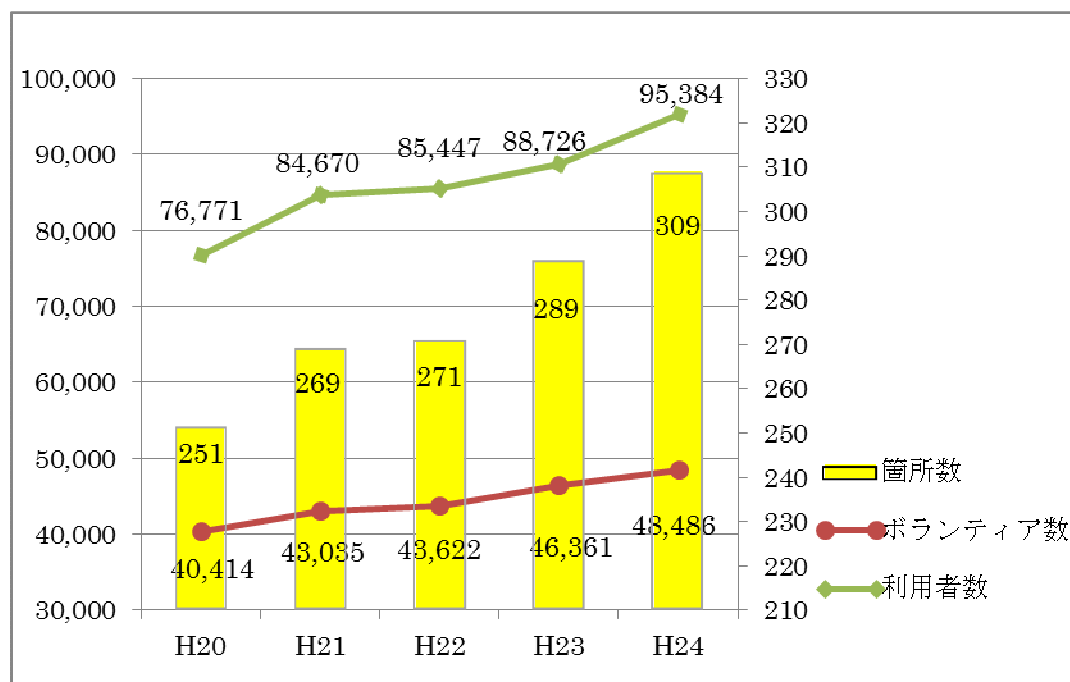
〔助成額〕 17,979,750円

〔活動状況〕

(平成25年3月末現在)

区	校区数	助成校区数	箇所数	述べ利用者数	述べボランティア数
東 (前年比)	27	27	70 (4)	25,765 (2,108)	12,826 (934)
博多 (前年比)	22	19	30 (△2)	10,777 (△681)	4,022 (△219)
中央 (前年比)	14	13	24 (△1)	4,972 (△771)	3,045 (△591)
南 (前年比)	25	23	37 (5)	11,444 (1,314)	5,250 (285)
城南 (前年比)	11	11	40 (1)	9,493 (172)	4,653 (△69)
早良 (前年比)	24	24	49 (4)	15,271 (1,403)	10,358 (557)
西 (前年比)	23	22	59 (9)	17,662 (3,113)	8,332 (1,228)
合計 (前年比)	146	139	309 (20)	95,384 (6,658)	48,486 (2,125)

〔ふれあいサロン事業助成箇所数、ボランティア数、利用者数の推移〕



③ ふれあいランチ事業

調理することが困難な高齢者、障がい者等へ食事を届け、利用者の健康増進を図るとともに、安否確認・各種相談等を行い、地域とのふれあいを深める活動を支援した。

なお、福岡市地域保健福祉振興基金を財源とし、活動費を助成した。

〔助成額〕 977,932円

〔活動状況〕

(平成25年3月末現在)

区	助成校区数	校区名	利用者数	ボランティア数	延べ配食数
東	1	美和台	9	11	843
博多	1	那珂	7	7	817
南	2	東花畑、若久	32	32	2,073
早良	1	百道	14	20	743
合計	5校区		62	70	4,476

④ あんしんサービス創造モデル事業

概ね小学校区域を対象とし、公的サービスでは対応できない福祉ニーズに対し、シニア世代等を活動者とした地域住民の参加によるサービスを提供する事業へ、初期費用の助成を行った。

〔助成校区〕 1校区 (城南区七隈校区)

〔助成金額〕 100,000円

⑤ 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業 (再掲) (P. 3)

⑥ 元気高齢者活動支援事業 (シニアアシスト) <城南区>

団塊の世代を中心とするシニア世代の技術や知識、経験を活用するため、人材発掘や

ボランティア活動への斡旋・調整等を行う職員を城南区社協に配置した。シニア世代の活動を地域課題の解決に結びつけるための講座を開催したほか、ホームページや機関誌で活動をPRした。

〔ボランティア団体登録状況〕 68団体 2, 271人

(内訳) 福祉(32)、まちづくり(14)、環境(9)、健康・医療(2)、健全育成(3)、文化(3)、防災(2)、教育(2)、災害救援(1)

〔活動体験プログラム〕 6団体、延べ参加人数26人

⑦ 安心情報キット配付事業 (再掲) (P. 6)

⑧ 見守り対象者情報の整理支援と緊急時連絡カード事業 (再掲) (P. 2)

(3) 地域で進める子育て支援

(24, 370千円)

① ファミリー・サポート・センターの拡充

子育て家庭が地域の中で孤立することなく、安心して子育てができるよう、地域において子育てを「応援して欲しい人」「応援したい人」を組織化し、会員制による相互援助活動を広めた。

〔会員登録状況〕

(平成25年3月末現在)

依頼会員	提供会員	両方会員	計
4, 886人	862人	878人	6, 626人

〔活動内容及び回数〕

	活動内容	回数
1	保育所・幼稚園の迎え及び帰宅後の預かり	5, 175
2	子どもの習い事等の場合の援助	1, 604
3	保護者等の買物等外出の場合の援助	1, 320
4	保育所・幼稚園の迎え	1, 198
5	保育所・幼稚園の送り	1, 068
6	(その他) 保護者等の短時間・臨時的就労の場合の援助 保育所・幼稚園の登園前の預かり 障がい児のサポート 等	7, 778
	合計	18, 143

〔講習会・交流会等の実施〕

(ア) 依頼会員登録講習 (支部：月～金、本部：第3土曜日)

(イ) 提供・両方会員養成講習会 (5回、受講者延べ857人)

(ウ) フォローアップ講座 (3回、受講者延べ113人)

(エ) 会員交流会 (9回、参加者延べ261人)

(オ) 活動未体験会員のための「あずかりっこ」(8回、参加者延べ159人)

(カ) 会員リーダー連絡会の実施 (2回)

② 子育てサロン・サークルの支援

子育てサロン・サークル活動の内容充実や、子育て相談の場を設定することを目的と

した、子育てサロン・サークルへの保育士派遣事業の実施について検討を行った。

(4) 民生委員児童委員協議会との連携

(35,352千円)

① 民生委員活動推進事業

(ア) 民生委員協議会助成事業

地域福祉を共に推進する民生委員・児童委員の活動充実を図るため、民生委員児童委員協議会へ活動費の助成を行った。

(5) 共同募金、寄付金等を活用した福祉のまちづくりの推進

(6,942千円)

① 友愛訪問事業

福岡市老人クラブ連合会の友愛訪問事業に対し、活動費の助成を行った。

② 共同募金配分事業（再掲）（P.9）

③ 奉仕銀行運営事業

本会に対する寄付金や物品を受け入れ、その受け入れた一般寄付金及び福岡市の補助金（福岡市に寄せられた寄付金）を財源に、法人格を有しない団体・施設に配分し、施設整備及び新規事業の実施を支援した。また、施設等への物品寄贈やイベント招待等を仲介した。

項目	件数	金額	備考
寄付金	27件	2,124,419円	
物品	4件	150,500円	車いす（4台）
仲介等	44件	—	野球試合招待、プロバスケットボール試合招待、定期演奏会招待、ピアノ等
合計	75件	2,274,919円	

(6) その他の社協事業

(35,712千円)

① 区社協事業（区ボランティアセンター事業等）

区ボランティアセンターと共働し、地域住民のボランティア活動への参画を促す講座や研修会の実施、活動相談やコーディネートの充実を図った。

（参考）2.（1）① ボランティアコーディネーション事業（P.15）

② 市社協事業

(ア) 行旅病人一時扶助事業

やむを得ない理由により一時的に困窮の状態にある行旅中の要援護者が、移動等のために必要とする費用の一部に充てるため、現金と乗車カードを博多区保健福祉センター（博多区保護3課）に預け、必要に応じて要援護者に支給を行った。

項目	件数	金額	備考
現金	0件	0円	
乗車カード	51件	51,000円	オレンジカード51枚

(イ) 全九州電力労働組合福祉基金事業

平成9年に全九州電力労働組合から九州社会福祉連合会へ寄付の申し出があったことを受け、本会が事務局として基金の管理を行っている。

〔運用利益の配分〕 11社協（7県4政令市）へ118,000円ずつ配分

2 多様なボランティア活動を推進します

ボランティア活動への参加促進やボランティア意識の高揚を図るため、広報・啓発活動や相談・紹介など各種事業を実施した。

(1) ボランティア活動相談・調整事業の強化 (3,224千円)

公的なサービスでは対応できない多様な生活課題を抱える人たちを支援するため、ボランティアをはじめ、関係機関への働きかけを行った。

また、ボランティア活動希望者が実際の活動に結びつくよう支援した。

① ボランティアコーディネーション事業

(ア) 個人ボランティア活動相談・登録

㊤活動相談 (合計)	㊦対応状況	相談のみ	マッチング率 (㊦÷㊤)
955	835(登録587、活動先紹介248)	120	87.4%

(イ) ボランティア依頼

㊤依頼件数 (合計)	㊦対応件数	延べ対応ボランティア数	マッチング率 (㊦÷㊤)
1,522	1,346	3,801	88.4%

〔依頼内容〕

内 容	件数	内 容	件数
託児	51	身体介助	3
施設・団体の行事援助	194	訓練	1
日常生活援助	178	遊び相手	51
技術・学習指導	101	点訳	129
家事援助	30	朗読	27
話し相手	170	散髪	0
外出付き添い	481	その他	106
合 計			1,522

(ウ) 登録ボランティア内訳

	24年度新規	累 計
個人ボランティア数	533人	2,006人
ボランティアグループ数	5団体	153団体
人数	149人	4,458人
合 計	682人	6,464人

② 施設・病院等ボランティアコーディネーター研修会

市内の福祉施設・病院においてボランティアの受入体制の整備・充実を図るため、施設・病院等のボランティア担当者を対象とした研修会を実施した。

〔実施日〕平成25年2月20日（水）・3月9日（土）

〔会場〕市民福祉プラザ

〔テーマ〕①初級編「ブレないコーディネーション」

②実践編「創るコーディネーション」

〔講師〕高口 貴子 氏（原土井病院ボランティアコーディネーター）

今村 晃章 氏（福岡県NPOボランティアセンター職員）

〔受講者数〕①49人 ②32人

③ ボランティア活動情報の収集・提供

登録ボランティアグループや福祉施設、小規模作業所のボランティアニーズの実態調査を実施し、下記資料を作成してボランティア相談等で活用した。

(ア) 登録ボランティアグループの状況調査

「センター登録ボランティアグループ一覧」、「芸能ボランティア情報」を作成し、ホームページに掲載したほか、グループに入会して活動を希望する個人や、施設、団体からの行事の際の依頼に対応した。

〔行事援助コーディネート数〕194件（再掲）

(イ) 施設・病院等ボランティアニーズ調査

「施設ボランティア募集情報・ボランティア体験受け入れ先情報」、「バザー用品等募集情報」を作成し、ホームページに掲載したほか、活動を希望する個人、団体への情報提供、コーディネートを行った。

(ウ) ボランティア情報紙「風」の発行

個人登録者などへ、様々なボランティア活動の紹介や情報の提供を行った。

〔発行回数〕6回（平成24年4、6、8、10、12月、平成25年2月）

〔発行部数〕2,700～3,000部/回

(エ) 芸能ボランティア情報冊子発行

芸能ボランティア活動を依頼する施設等に対して、充実した情報を提供できるように個人やグループで活動する芸能ボランティアに関する冊子を発行し、ホームページにも掲載した。

(オ) ホームページによる情報提供

ボランティア講座の案内、ボランティアグループの紹介、市・区ボランティアセンターの紹介などのボランティア情報を、ホームページをとおして提供した。

〔アクセス数〕15,135件

(2) ボランティアの育成、活動支援

(1,770千円)

多様な生活課題に応えるため、一定の知識や技術を必要とするボランティアを各種講座を通じて育成した。また、ボランティアグループの活動を支援した。

① 各種ボランティア養成講座の充実

(ア) 技術ボランティア養成講座

主に、視覚障がい者の方を対象とした技術を要する活動に参加するボランティアを養成するための講座を開催した。

i) 音訳(朗読)ボランティア養成講座

・初心者向け

〔期間〕平成24年6月21日(木)～10月4日(木) (全13回)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕佐々木 健介 氏 (元アナウンサー)

〔受講者数〕26人

・追加講座

〔期間〕平成24年11月1日(木)～平成25年3月21日(木) (全13回)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕林 欣子 氏 (元アナウンサー)

〔募集人数〕25人

※初心者向け及び追加講座受講者のうち14人は対面朗読サービスを、その他は音訳グループに順次加入し活動を始める。

ii) 視覚障がい者ガイドボランティア養成講座

〔期間〕平成24年9月1日(土)～15日(土) (全3回)

〔会場〕市民福祉プラザ 他

〔講師〕山田 裕基 氏 (国立視力障害センター)

〔受講者数〕21人

※うち17人がガイドボランティアサークル「風車」に加入した。

(イ) ボランティアリーダー研修会

ボランティアグループのリーダーや活動経験の長いボランティアを対象に、それぞれの活動をより活性化させるための研修会を行った。

〔日程〕平成25年3月9日(土)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔テーマ〕「リーダーのコミュニケーション術」

〔講師〕富岡 郁雄 氏 (NPO 法人日本ソーシャルコーチ協会)

〔受講者数〕36人

(ウ) シニアボランティア講座

介護支援ボランティア事業の開始に伴い、スムーズに活動を開始することができるよう、ボランティア活動や高齢者施設の基本についての講座を行った。また、各回の後半では介護支援ボランティア事業の説明、登録会を行い、未登録者の登録を促進した。

〔期間〕平成25年2月1日(金)、5日(火)、26日(火) (全3回)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔テーマ〕①高齢者の心と体

②認知症について

③高齢者施設でのボランティア活動の様子

〔受講者数〕①42人 ②42人 ③45人

※実受講者76人のうち、64人が介護支援ボランティア事業への個人登録を行っている。

(エ) 課題別ボランティア養成講座

公的サービスでは対応することが難しい、多様な生活課題を抱える方々の支援を行うボランティアの育成を行った。

i) 失語症会話パートナー養成講座

失語症者の悩みや不便さを理解し一緒に会話を楽しんだり、周囲や社会とのやりとりを支援したりするボランティアを養成した。

〔期間〕平成24年5月19日(土)、20日(日)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕失語症会話パートナー養成「あんど」(福岡県言語聴覚士会)

〔受講者数〕16人

※うち14人が失語症パートナー活動を開始した。

ii) バリアフリー映画スタッフ会議&研修会

目や耳の不自由な人に多くの映画やDVDを楽しんでいただくために、映画などのナレーションや字幕を作成するボランティアを支援した。

〔日程〕平成24年6月16日(土)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔受講者数〕30人

※うち23人がボランティアグループ「バリアフリーシアター エイムing」に加入した。

iii) 高齢者外出ボランティア養成講座

加齢により外出が困難となった高齢者の散歩や買い物、展覧会など生きがいに つながる外出を支援するボランティアを養成した。

〔期間〕平成24年7月28日(土)～8月18日(土)(全4回)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕首藤 昭敏 氏(介護福祉士)、松野 浩二 氏(理学療法士)、
富岡 郁雄 氏(NPO法人日本ソーシャルコーチ協会)

〔受講者数〕20人

※うち18人が高齢者外出支援ボランティアグループ「ひまわり」に加入した。

(オ) ボランティア初心者研修会

ボランティアについての基礎講座を開催し、活動のきっかけづくりを行った。

〔実施日〕平成24年5月26日(土)、7月28日(土)、9月28日(金)、

11月10日(土)、平成25年1月19日(土)、3月16日(土)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔受講者数〕計68人

(カ) 「勤マルの日」事業

誰でも気軽に参加できる拠点ボランティアと、企業などが独自に内容等を企画した自主活動をあわせて行う福岡独自のイベントとして、NPOふくおか及び福岡県経営者協会と共催して実施した。(※「勤マル」…「勤労者マルチライフ支援事業」の略で、勤労者の社会参加・ボランティア活動への参加を促進するための事業)

〔実施日〕平成24年11月11日(日)、17日(土)、25日(日)

〔会場〕福岡県内3か所(楯の松原、アイランドシティ、脇田海岸)

※雨天中止…志賀島、こども病院、九州大学病院、警固校区、南区那珂川沿

い、九州がんセンター、葦の家、長浜海岸松原
 [参加者数] 214人

② 登録ボランティアグループへの支援

(ア) 活動拠点・資材・情報の提供

i) 助成

内 容	件 数	備 考
グループ結成時支援資金	4	120,000円
ボランティア活動保険料一部補助	4,225	422,500円
福岡市ボランティア連絡協議会	1	100,000円

ii) 貸出

内 容	件 数	備 考
パソコンルーム等活動室	3,359	延べ 17,459人

(3) 災害ボランティア活動の推進

(255千円)

災害に対する日頃からの備えの大切さを市民に啓発するための研修会を開催した。また、災害ボランティアセンター運営マニュアルを作成し、災害時にボランティアセンターが速やかに機能できるよう災害ボランティアセンター立ち上げシミュレーションを実施した。

① 災害ボランティア講座の開催

実施日	会 場	内 容	参加者数
平成24年 12月22日(土)	市民福祉プラザ	<講演> 「災害時にいきる支援活動」 <ワークショップ> 「災害に強い地域づくり」	46
平成25年 3月15日(金)	福岡大学	<公開討論会> 「地域防災と大学生の力」	120

② 防災イベント（防災どんたく）への参加及び災害NPO・ボランティアとの協働

[実施日] 平成25年3月2日～3月24日

[会場] 福岡市民防災センター他5か所

[内容] 地域防災活動の事例発表や講演会、避難生活体験事業などを実施

[開催回数] 6回

③ 災害ボランティアセンターの体制づくり

(ア) 災害ボランティアセンター運営マニュアルの作成

[配布先] 関係機関、本会職員

[配布数] 100部

(イ) 災害ボランティアセンター立ち上げシミュレーション

[実施日] 平成24年7月17日(火) ※休館日

[会場] 市民福祉プラザ

[参加者数] 76人(本会職員、関係機関、個人ボランティア)

(4) 介護支援ボランティア事業（再掲）（P. 6）

3 その人らしい暮らしを支えます

(1) 相談機能の充実・強化

(4,730千円)

① 地域福祉ソーシャルワーカー・モデル事業（再掲）（P. 3）

② 心配ごと相談所事業

民生委員・児童委員、福岡県弁護士会及び行政書士の協力を得て、市民の日常生活上のさまざまな相談に応じ、適切な助言、援助を行うことでその人らしい暮らしを支える「心配ごと相談所」を次のとおり実施した。

また、あわせて福岡市からの受託事業として福祉相談事業（高齢者に関する法律相談）を、「心配ごと相談所」において実施した。

(ア) 開設状況

[実施日時]

・心配ごと相談

一般相談：月曜日 10時から16時まで

専門相談：月曜日、金曜日 13時から16時まで

・高齢者に関する法律相談

水曜日 13時から16時まで

※相談日の1か月前から電話等による予約受付を実施。

[場所] 市民福祉プラザ3階 相談室

[相談員] 民生委員・児童委員 2人、弁護士 1人、行政書士 1人

(1相談日につき)

[開設日数]

・心配ごと相談（一般相談、専門相談） 92日

・高齢者に関する法律相談 49日

[相談状況] ※うち()は、高齢者に関する法律相談

種別	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	一日平均
	生計・年金	職業・生業	住宅	家族	結婚・離婚	医療・保健	人権・法律	財産	事故	福祉	苦情	その他		
件数	29 (5)	4 (0)	43 (21)	72 (23)	58 (8)	14 (3)	37 (12)	157 (53)	20 (5)	22 (5)	18 (4)	51 (16)	525 (155)	3.7 (3.2)

[相談結果]

	相談所解決	継続	民生委員紹介	他機関紹介	その他	計
件数	438 (135)	9 (1)	0 (0)	61 (18)	17 (1)	525 (155)

③ 「相談窓口のてびき」の作成

関係機関で提供される福祉制度や福祉サービスなどを紹介するため、「相談窓口のてびき」をホームページに掲載し、市民への相談窓口の情報提供を図った。

(2) 個別支援の強化・拡充

(81,542千円)

① 日常生活自立支援事業

認知症や知的障がい、精神障がいなどで判断能力が不十分な人の権利を擁護することを目的として、地域において自立した生活ができるように、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの生活支援を行った。

〔相談件数〕 695件

〔調査件数〕 349件

〔新規契約件数〕 171件（前年度からの相談も含む）

〔総契約件数〕 1,015件（平成12年1月～平成25年3月末）

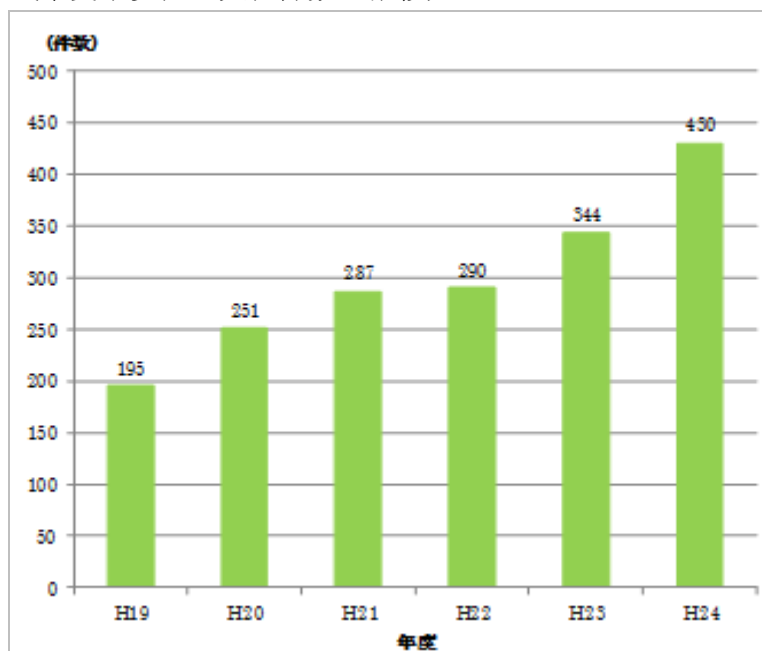
※解約累計585件

〔現契約件数〕 430件

〔利用者内訳〕

認知症高齢者	255件
知的障がい者	79件
精神障がい者	90件
その他	6件
合計	430件

〔年度末現在の契約件数の推移〕



② 高齢者賃貸住宅入居支援事業

民間賃貸住宅や都市再生機構（UR）に居住する高齢者が安心して在宅生活を送ることができるよう、定期的な見守りサービスや住宅退去時のサービス等に関する事業を実施した。

なお、新規契約申込みの受付は、平成22年度末をもって終了した。

〔現契約件数〕 66件

③ 高齢者住宅相談支援事業

民間賃貸住宅を探している高齢者に対し、物件情報や生活支援サービスに関する情報を提供した。

〔相談件数〕 203件

〔物件紹介件数〕 592件

〔成約件数〕 16件

④ ずーっとあんしん安らか事業

葬儀・家財処分サービスを行うための預託金を預かり、定期的な見守り及び入退院時の支援などを実施した。

〔相談状況〕 63件（平成24年4月～平成25年3月）

〔現契約件数〕 25件（うち、公正証書遺言書作成件数9件）

⑤ 成年後見支援事業（再掲）（P. 2）

⑥ 低所得者への生活支援事業

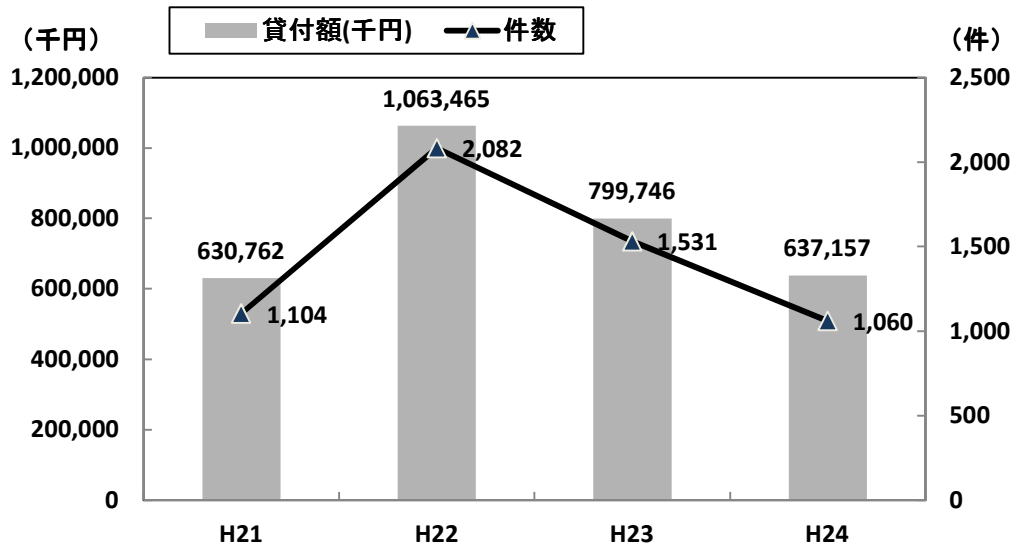
低所得者、高齢者、障がい者等に対して、各種貸付事業を実施した。

（ア）生活福祉資金貸付事業

低所得世帯、障がい者世帯、高齢者世帯等世帯単位を対象に、それぞれの世帯の状況や必要に合わせた資金の貸付けを行い、低所得者等の経済的自立と生活意欲の助長や在宅福祉、社会参加の促進を図った。

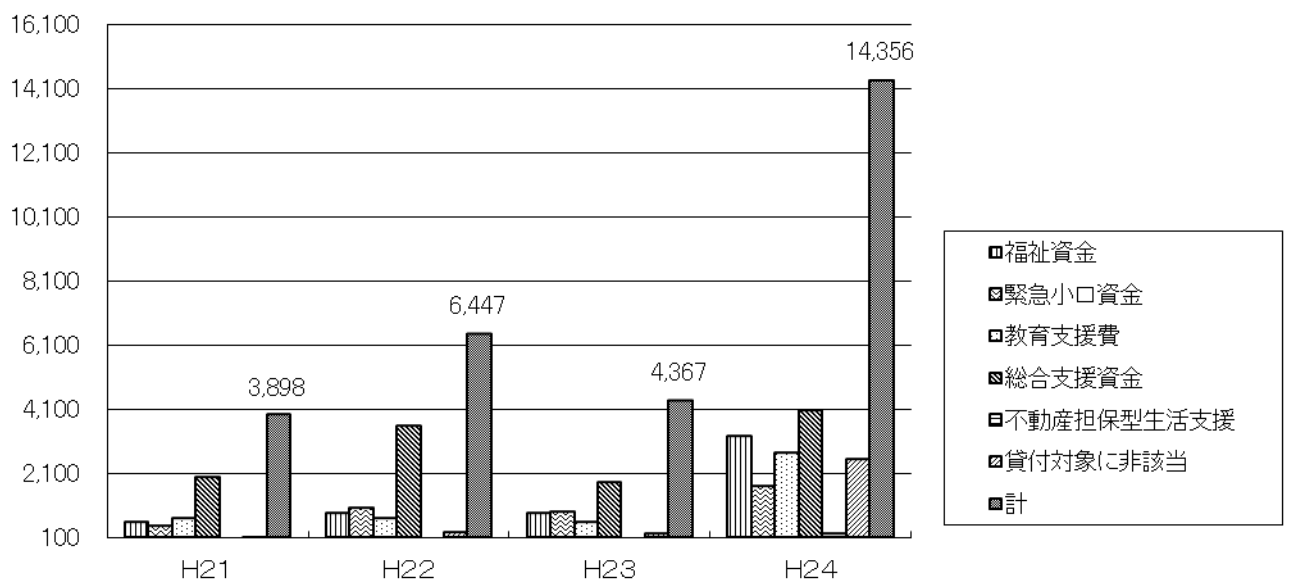
〔貸付件数〕

資金種類	貸付		償還(元金)
	件数	金額(円)	金額(円)
福祉資金	290	58,052,000	45,715,514
教育支援資金	296	394,036,000	78,036,586
緊急小口資金	196	18,126,000	12,754,355
総合支援資金	271	105,289,981	58,111,625
離職者支援資金	0	0	22,987,130
不動産担保型生活資金	3	39,690,000	21,519,300
要保護世帯向け不動産担保型生活資金	4	21,964,000	0
計	1,060	637,157,981	239,124,510



〔相談件数〕

資金種別	年度別相談件数			
	H 2 1	H 2 2	H 2 3	H 2 4
福祉資金	563	821	829	3,230
緊急小口資金	430	1,014	867	1,687
教育支援費	695	694	561	2,702
総合支援資金	1,971	3,556	1,804	4,026
不動産担保型生活支援	82	130	100	204
貸付対象に非該当	157	232	206	2,507
計	3,898	6,447	4,367	14,356



(イ) 生活保護世帯等一時貸付事業

生活保護世帯や低所得世帯の緊急時の出費等に対する貸付事業を実施した。

種別	貸付		償還(元金)
	件数	金額(円)	金額(円)
生活保護世帯分	3,188	42,403,650	42,792,650
支援給付分	0	0	0
低所得世帯分	4	70,000	135,000
離職者緊急支援つなぎ分	0	0	8,000
合計	3,192	42,473,650	42,935,650

⑦ ホームレス自立支援事業

(ア) 「福岡絆プロジェクト」への参画

ホームレスや若年生活保護世帯の人たちの支援をすすめる「福岡絆プロジェクト」に参画した。

また、BIG ISSUE FUKUOKAと連携を図りその校正や路上生活脱出ガイドの配付を行うなど路上生活脱出に向け支援した。

(イ) 生活用品の配布

歳末たすけあい募金の配分を受け、冬期の寒さをしのぐための冬季に必要な暖房用品(カイロ)や医薬品、肌着、タオルなどを支援団体と協力し、ホームレスの人たちに配布した。

〔配布数〕 3,332品

⑧ 家族介護者のつどい事業

家庭で寝たきり高齢者や認知症高齢者及び障がい者を介護している家族介護者を対象に、日頃の悩みや体験についての意見交換や介護者同士の交流、心身のリフレッシュを目的とした集いを実施した。

ブロック	実施日	会場	参加人数
東区、博多区、南区	平成24年11月27日(火)	レイクサイドホテル久山 (糟屋郡久山町)	17
中央区、城南区 早良区、西区	11月29日(木)		15

⑨ 福祉用具リサイクル斡旋事業

不用となった福祉用具を「譲りたい人」と福祉用具が「必要な人」をコーディネートし、福祉用具のリサイクルを進めるとともに、福祉用具の普及と在宅介護の軽減を図った。また、提供状況から斡旋できる用具がなく、譲受希望者が早急に用具を必要としている場合には、福祉用具リサイクル業者などの情報提供に努めた。

〔登録件数〕

	車いす・電動車いす	電動ベッド	歩行支援用具	その他	計
提供希望者	22	18	7	17	64
譲受希望者	49	22	12	15	98
合計					162

[処理した件数]

成 立	取り下げ	調 整 中
8 4 件(4 2 組)	4 5 件	0 件

⑩ リフトカー貸出事業

歩行が困難な高齢者、障がい者等の社会参加の機会拡大等のために、リフトカー2台の貸出を行なった。

[貸出件数] 1 4 2 件 (延べ日数 2 5 6 日)

⑪ その他貸付事業

(ア) 臨時特例つなぎ資金貸付事業

解雇や派遣労働者の雇止め等により住居を喪失し、その後の生計維持が困難な離職者が公的給付制度等(失業等給付、住宅手当等)を申請し、その交付を受けるまでの当面の生活費の貸付を行った。

貸 付		償 還 (元金)
1 8 件	1, 7 5 0, 0 0 0 円	1, 1 5 1, 9 5 0 円

(イ) 障がい者高齢者住宅整備資金貸付事業の実施

平成22年度末をもって貸付事業は終了し、償還のみ行った。

貸 付		償 還 (元金)
0 件	0 円	1, 5 4 7, 8 8 0 円

(3) 団体・施設等を通しての支援

(1 2 2, 1 9 6 千円)

① 福祉バス事業

老人クラブ、障がい児・者団体及び母子福祉団体の福祉活動を支援するための福祉バスの申し込み受付、バス会社への配車予約等を実施し、延べ35,291人の利用実績があった。

[福祉バス利用状況]

高齢者団体	心身障がい者団体	児童・母子福祉団体	その他	合 計
6 5 8 台	2 2 7 台	1 5 台	1 2 0 台	1, 0 2 0 台

② 歳末たすけあい運動募金配分事業

歳末たすけあい運動募金の配分を受け、福祉作業所等の利用者や交通遺児、里親委託児童に対し、見舞金の贈呈を行った。また、校区社協、子育て支援団体や障がい児者支援団体、社会的課題支援団体が歳末時期に実施する事業の事業費を助成した。

[対象団体等]

	対象者・団体	件数
見舞金贈呈事業	福祉作業所等利用者	486
	交通遺児	48
	里親委託児童	74
助成事業	校区社協	153
	子育て支援団体	193
	障がい児者支援団体	94
	社会的課題支援団体	7

③ 社会福祉施設等支援事業

(ア) 社会福祉事業従事者研修

民間社会福祉施設従事者を対象とした5種の研修と社会福祉関係団体職員を対象とした2種の研修を実施し、福祉に関する知識や技術、組織の中での役割などについての理解を深めた。

研修対象	研修事業名	研修日数(日)	受講者数
民間社会福祉施設従事者	新任職員研修Ⅰ(社会人1年目)	2	24
	〃Ⅱ(社会人2～3年目)	2	47
	中堅職員研修	2	42
	指導的職員研修	2	31
	救急法研修(2回実施)	2	128
	福祉レクリエーション研修(2回実施)	2	117
社会福祉関係団体職員	人権研修	1	49
	接遇研修	1	70
合計		14	508

(イ) 民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済事業

民間社会福祉施設等の職員の福利厚生の充実を目的に、加入職員のニーズにあわせた事業の企画・実施に努めた。

(事業の詳細については、別表1(P.37～38)のとおり。)

(平成25年度3月末現在)

加入契約法人数	施設数	加入職員数
122法人	159施設	4,030人

(ウ) 民間保育施設整備資金貸付事業

民間が経営する保育施設の建物の修理、増改築及び備品等の整備に必要な資金の貸付事業を実施した。

貸付	償還(元金)
0件	0円
	4,553,074円

(エ) 施設整備利子補助事業

社会福祉事業の振興を図るため、福祉医療機構から借り入れた資金の利子支払いに

対しての補助金交付を決定した。

〔対象〕 83法人・86施設・89件

〔補助金額〕 55,561,772円

(オ) 更生保護施設助成事業

更生保護の推進を目的とした活動に対して、補助金を交付した。

〔対象〕 3団体

〔補助金額〕 1,830,000円

(カ) 児童福祉施設球技大会（福岡市・福岡市社会福祉協議会 主催）

〔実施日〕 平成24年6月17日(日)

〔会場〕 山王公園野球場、博多市民体育館

〔競技種目及び出場チーム〕 軟式野球の部 3チーム

バレーボールの部 3チーム

④ ときめき（授産）製品共同配送事業（再掲）（P. 6）

4 福祉の心を育みます

(1) 福祉学習の推進

(1,805千円)

学校、地域、市民や企業に対し、福祉についての学習の機会や教材等を提供し、理解と関心を高め、福祉活動への参加の動機付けを図った。

① 福祉学習教材の提供

(ア) 児童・生徒への福祉読本「わたしもあなたもボランティア」

〔配布先〕 市内の中学校1年生及びその担当教師

〔配布数〕 16,000部

(イ) 福祉体験学習マニュアル「福岡市の福祉教育お役立ちBook」

〔配布先〕 市内の小中学校

〔作成数〕 270部

② 出前福祉講座

学校、企業などに出向き、障がい者疑似体験、高齢者疑似体験などを行い、福祉やボランティア活動の理解を深めた。

〔件数〕 46件

〔対象〕 公民館、学校、企業、地域団体等

③ ボランティア体験事業

障がい者フレンドホームでの障がい者との交流を通じて福祉やボランティア活動への関心を高めるための、社会体験の場を提供した。

〔期間〕 平成24年8月10日(金)～8月23日(木) (全6回)

〔会場〕 市内障がい者フレンドホーム (5箇所)、市民福祉プラザ

〔講師〕 藤川 嘉宏 氏 (早良障がい者フレンドホーム)

〔受講者数〕 26人 (いずれかの日程に参加)

④ 福祉学習教材の貸し出し

貸出品	件数	延べ貸出数
車いす(在宅利用含む)	2 2 1	7 9 9
アイマスク	2 2	7 3 8
高齢者疑似体験	5 8	3 9 6
点字器	1 2	4 6 9
共用品・白杖	5 4	3 7 1

⑤ 企業の社会貢献（CSR）セミナー

〔実施日〕平成24年9月10日(月)

〔会場〕市民福祉プラザ

〔講師〕川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表者)

〔受講者数〕43人

(2) 福祉啓発・情報提供機能の充実

(3, 628千円)

① ホームページや広報紙を通じた情報発信

(ア) 広報紙「ふくしのまち福岡」の発行

福祉やボランティアに関する情報及び本会の活動や事業を広く市民に紹介し、福祉に対する意識を高めるため、広報紙を発行・配布した。

〔発行回数〕2回(第106号・第107号)

〔発行部数〕17,000部/回

(イ) ホームページの運営

市民に本会事業を周知するため、ホームページにより最新情報の発信を行った。

〔アクセス数〕617,357件

② 福祉のまちづくり推進大会

市民や福祉関係者を対象に、福祉功労者の表彰や福祉活動の紹介、記念講演の実施を通じて、市民一人ひとりの福祉についての関心を高めるきっかけづくりを行った。

〔実施日〕平成24年11月2日(金)

〔会場〕福岡市民会館

〔参加者数〕1,800人

〔記念講演〕「無縁社会～今、見つめ直すべきこと～」

講師：鎌田 靖 氏 (NHK解説委員)

③ 福祉啓発イベント

(ア) ハートフルフェスタ福岡2012

市民の人権問題についての理解を深めるために、ボランティアの協力を得て福祉体験コーナーを設け、車イス体験などを行った。

〔実施日〕平成24年10月14日(日)

〔会場〕福岡市役所ふれあい広場

〔参加者数〕158人

〔内容〕車イス体験、アイマスク体験、出前ボラセン

(イ) 障がい者週間（12月3日～9日）記念の集い

福岡市が主催する「障がい者週間記念の集い」事業に参加し、障がい者関係団体とともに障がい者の社会参加と福祉向上のための啓発活動を行った。

〔実施日〕平成24年12月9日(日)

〔会場〕市民福祉プラザ ふくふくホール

〔参加者数〕400人

〔基調講演〕「誇りと感謝を胸に～金メダルへの～」

講師：江黒 直樹 氏（ゴールボール日本女子チーム監督）

〔パネルディスカッション〕「夢は必ず叶う」（ゴールボール日本女子チーム選手）

〔ステージ〕各福祉団体等

〔映画〕バリアフリー映画「明日の記憶」（日本語字幕・副音声付き）

④ 出前ボランティアセンター事業

地域のイベント等に出向き、来場者にボランティア活動についての相談や広報を行った。

行事名	実施状況
清水ふれあい祭り	〔実施日〕平成24年8月26日(日) 〔会場〕障がい者スポーツセンター 〔来場者〕70人
ふれあい広場	〔実施日〕平成24年9月22日(土・祝) 〔会場〕九州産業大学 〔来場者〕600人
西区まるごと博物館 in 姪浜中央公園 2012	〔実施日〕平成24年9月30日(日) 〔会場〕姪浜中央公園 〔来場者〕137人
ハートフルフェスタ福岡2012	〔実施日〕平成24年10月14日(日) 〔会場〕福岡市役所ふれあい広場 〔来場者〕158人
まつりはかた2012	〔実施日〕平成24年10月28日(日) 〔会場〕中比恵公園 〔来場者〕160人
バリアフリーイベント	〔実施日〕平成24年11月3日(土・祝) 〔会場〕市民福祉プラザ 〔来場者〕100人

⑤ 対面朗読サービス

(ア) 対面朗読サービス

視覚障がい者などが情報を得る方法の一つとして、福祉図書・情報室にて登録ボランティアによる「対面朗読サービス」を提供した。

〔実績〕493件

(イ) 対面朗読ボランティアスキルアップ講座

登録ボランティアの技術の向上を図るため、スキルアップ講座を行った。

〔会場〕市民福祉プラザ402会議室

〔講師〕林 欣子氏（元アナウンサー）

	実施日	内容	参加者数
第1回	平成24年 6月25日(月)	対面朗読ボランティアの技術 (新聞の朗読等)	34名
第2回	7月2日(月)	対面朗読ボランティアの技術 (写真の朗読等)	31名
第3回	7月9日(月)	対面朗読ボランティアの技術 (実践)	29名

⑥ 防災イベント(関係機関と協働)(再掲)(P.19)

5 市民福祉プラザ事業を推進します

市民福祉プラザの指定管理者として、市民が安心して利用できるよう管理運営を行うとともに、入居団体等と連携して研修及び啓発事業、相談事業等を実施し、市民の福祉への理解や福祉活動への参加を支援した。

(1) 福祉活動拠点機能の充実

(17,274千円)

① 貸室運営

市民福祉プラザの各種施設を福祉関係団体や障がい者、高齢者等の市民が十分活用できるように管理運営を行った。

[施設全体の利用延人員] 322,866人(前年度比103.6%)

(各施設の利用状況は別表2(P.39)のとおり。)

② 障がい者作品展、利用団体写真展等の実施

(ア) 障がい者作品展

障がい者週間にあわせて福祉団体・施設から寄せられた絵画や写真、書などを展示し、障がい者福祉の啓発に努めた。

[実施日] 平成24年12月3日(月)～27日(木)

[会場] 市民福祉プラザ エントランスホール、レストラン内 他

[参加数] 5施設・団体 43作品

(イ) ふくふくプラザ写真展の開催

写真を趣味としてプラザを利用している高齢者団体や障がい者団体等を対象に、生きがい活動の支援と利用団体相互の交流を図ることを目的に、写真展を開催した。

[実施日] 第1回 平成25年3月20日(水)～4月2日(火)

※第2回は平成25年4月17日(水)～4月30日(火)、第3回は平成25年5月7日(火)～5月20日(月)に実施予定。

[会場] 市民福祉プラザ エントランスホール

[参加数] 6団体 90作品

③ ふくふくプラザまつり、福祉映画鑑賞会の開催

(ア) ふくふくプラザまつり

障がい者週間にあわせて市民を対象にした福祉啓発と、利用団体の交流を図ることを目的に「ふくふくプラザまつり」を開催した。

[実施日] 平成24年12月8日(土)～9日(日)

〔会場〕 市民福祉プラザ エントランスホール 他
 〔参加団体〕 29団体
 〔内容〕 ステージでの発表、授産製品の販売 等

(イ) 福祉映画鑑賞会の開催

市民の福祉意識やボランティア意識の高揚を図ることを目的に、障がい者も一緒に鑑賞できる副音声や字幕入りの福祉映画鑑賞会を開催した。なお、この鑑賞会は福岡市主催「障がい者週間記念の集い」と連携して行った。

〔上映作品〕 「明日の記憶」
 〔実施日〕 平成24年12月9日（日）
 〔会場〕 市民福祉プラザ ホール
 〔入場者数〕 116人

④ プラザ利用団体、地域団体等との懇談会

入居団体やプラザ利用団体と、施設運営に関する意見交換をそれぞれ実施し、改善等を行った。また、地域団体等と懇談会等を通して地域とプラザ共通の問題等について協議するとともに、地域情報とプラザ情報を共有化し、地域との交流を図った。

- (ア) プラザ入居団体連絡会（年6回）
- (イ) 視覚障がい者団体やボランティア団体等との懇談会（年1回）
- (ウ) 当仁校区自治協議会連絡会への参加（年11回）
- (エ) 団体連絡室利用団体との懇談会（年1回）

(2) 市民向けの福祉講座の開催

(301千円)

① 市民福祉講演会

平成23年度に引き続き「成年後見制度」をテーマにするなど、高齢化社会に向けての相互支援の講演会を市民向けに実施し、福祉の啓発と福祉事業への理解を図った。

実施日	内容等
<第1回> 平成24年 7月5日(木)	「『住民流宣言』助け合いの地域づくり」 講師：木原 孝久 氏(住民流福祉総合研究所長) 会場：市民福祉プラザ ふくふくホール 参加者数：194人
<第2回> 8月7日(火)	「成年後見制度って何？」 講師：岩城 和代 氏(岩城弁護士事務所弁護士) 会場：市民福祉プラザ ふくふくホール 参加者数：210人
<第3回> 11月15日(木)	「誰もが安心して暮らせる地域づくり」 講師：下村 恵美子 氏 (社会福祉法人福岡ひかり福祉会 宅老所よりあい施設長) 会場：市民福祉プラザ 601研修室 参加者数：122人

② 施設見学受入

市民福祉プラザ施設見学を受け入れ、ユニバーサルデザインなどへの理解と施設の利用を促した。

〔見学回数〕 65回
 〔見学延日数〕 57日

〔見学者数〕 1, 784人

(3) 情報提供と相談事業の充実

(18,881千円)

① 福祉図書・情報室の運営

	図書	ビデオ・DVD
蔵書数	29,602冊	1,232本
利用状況(貸出数)	11,416冊	798本

〔利用者数〕 38,383人(新規登録者数458人)

〔レファレンス数〕 1,078件

② 「ふくふくプラザだより」の発行

〔発行回数〕 12回(毎月発行)

〔発行部数〕 紙版 4,000部/回

音訳版 21本/回

点訳版 11部/回

③ プラザ相談窓口 相談員研修会の開催

〔開催日〕 平成24年11月15日(木)

〔会場〕 市民福祉プラザ 502・503研修室

〔参加者数〕 44人

〔内容〕 講話「～聴く達人になる～質問力」

〔講師〕 富岡 郁雄 氏(NPO法人日本ソーシャルコーチ協会 理事長)

6 市・区社協の基盤を強化します

(1) 事業推進体制の強化

限られた資源・人材を効率的に投下するため、区社協にて実施していた業務を市社協に統合するなどの業務の見直しを行ったほか、多様化・複雑化する福祉課題に柔軟かつ適切に対応していくために必要となる職員の資質向上やその支援体制の整備に向けた準備検討を行った。

(2) 職員の資質の向上と人材育成

(1,318千円)

① 職員研修の充実

職員の資質向上を体系的に行い、充実した職員研修を実施するため、職員研修体系を見直し、整備した。

② 資格取得への支援

職員の専門性を高めるため、国家資格等の取得のための受験手数料等の助成を行う。

〔助成件数〕

資格名	受験手数料	登録免許税 登録手数料
社会福祉士	0件	1件
精神保健福祉士	0件	1件
介護支援専門員	0件	0件

③ 相談援助技術の向上

職員の地域福祉活動推進業務等における相談援助技術向上のため、専門研修を行う。

	日 程	内 容
第1回	平成24年 7月5日(木)	支え合いマップづくりについて 講師：木原 孝久 氏(住民流福祉総合研究所長)
第2回	平成24年 12月11日(火)	保健師の実践(校区支援計画)について
第3回	平成25年 2月12日(火) 2月15日(金)	プレゼンテーション力向上研修

④ 職員実践事例発表会の実施

職員が日頃の業務等で得た成果を論文にまとめ、審査・表彰や発表会を行うことにより、職員の資質や知識、業務への意欲の向上を図った。

〔日時〕平成25年2月8日(金) 16:00~18:00

〔発表論文数〕5(応募総数14)

(3) 財源の確保

福岡市ボランティア活動振興基金の管理運営を行うとともに、ホームページのバナー広告など自主財源の確保に努めた。

① ボランティア活動振興基金の造成

ボランティア活動振興のために設置した基金に寄付等を積み立て、ボランティア活動を推進するための財源確保に努めた。

内 訳	件数	金 額
奉仕銀行ボランティア特定寄付金	10件	30,000円
福岡市ボランティア活動振興基金補助金	—	450,000円
合 計		480,000円

〔平成24年度末基金額〕651,461,505円

② その他の財源の確保

内 訳	件数	金 額
会費(正会費・賛助会費)	308	485,000円
ホームページバナー広告	4	180,000円
車いす等貸出料	59	163,400円
外部講師謝礼	16	377,000円
実習生受入謝礼	2	20,000円
使用済み切手売却益	—	248,700円
合 計	389	1,474,100円

(4) 収益事業の実施(収益事業特別会計)

プラザのレストラン運営及び自動販売機の設置により、プラザ利用者の利便性を図るとともに、収益金を本会事業に活用した。

(5) 第4期地域福祉活動計画の進行管理

ふれあいネットワークやふれあいサロンの組織化等、数値目標のある事業について、定期的に進捗状況の確認を行った。

(6) 社会福祉法人新会計基準への移行準備

全ての社会福祉法人が平成27年度までに「新会計基準」に移行することが定められており、平成26年度から円滑に移行するため、新基準に基づく財務諸表の整備・試算や情報収集を行った。

(7) 社協起動プランの策定（再掲）（P. 7）

7 その他の事業

(1) 補助事業（ふれあい入浴事業等） (5,790千円)

高齢者の健康増進や交流を目的とする「ふれあい入浴事業」の活動を支援するため、市内の公衆浴場に対し福岡市の補助金を財源として事業費の助成を行った。

〔助成額〕 5,790,000円

〔助成箇所数〕 16戸

(2) 福岡市社会福祉協議会顕彰

社会福祉増進のため意欲的に活動を続け、その功績が顕著な個人、団体に対し「福岡市福祉のまちづくり推進大会」にて表彰を行った。

〔福岡市社会福祉協議会会長 表彰〕 123人・50団体

〔福岡市社会福祉協議会会長 感謝状〕 147人・27団体

(3) 「第55回大都市社会福祉施設協議会（千葉市大会）」への参加 (202千円)

政令指定都市の各種別の社会福祉施設の代表者が一堂に会し、大都市の施設が抱える問題等を研究・協議する会議について、参加の呼びかけや提出する議題のとりまとめを行うとともに、各施設の参加者とともに総会・研究会・交流会に出席した。

〔本市参加者〕 施設関係者 12人、社協 1人

(4) 戦災引揚死没者追悼式 (841千円)

昭和20年6月19日の大空襲による戦災死没者及び海外からの引揚げの途中に死没された方々の冥福を祈るとともに、恒久平和の誓いを新たにすため、地域団体とともに、追悼式を実施した。

〔実施日〕 平成24年6月19日(火)

〔会場〕 福岡市戦災記念碑（博多区冷泉公園内）

〔参加者数〕 268人（うち遺族52人）

(5) 老人の日関連事業 (1,725千円)

高齢者に対する敬愛の念を示すとともに、「老人の日」を記念して、百歳を迎える高齢者に祝状と記念品を、米寿を迎える高齢者に祝状を福岡市とともに贈呈した。

〔贈呈者数〕

百歳	米寿	合計
253人	4,237人	4,490人

(6) 介護サービス評価事業 (145千円)

① ホームページによる情報提供

平成22年度末をもって終了した介護サービス評価事業について、認証交付期間中(2年間)の事業所情報をホームページ上で公開した。

〔情報提供事業所数〕 30件

② 個別訪問相談支援事業(福岡市介護保険事業者研修)

「介護サービス評価事業」のノウハウを活用し、介護サービス事業所への助言等を行うことを目的として、元調査員を事業所に派遣した。

〔派遣件数〕 17件

(7) 福祉サービス苦情解決

福祉サービス利用者の苦情や意見を幅広く汲み取り、サービス内容をより充実するため苦情解決に取り組んだ。

(8) 北部九州豪雨災害被災地支援 (397千円)

九州社会福祉協議会連合会、福岡県社会福祉協議会からの支援要請を受け、本会より被災地に職員を2人ずつ6班派遣し、災害ボランティアセンターの運営支援等を行った。

① 大分県竹田市災害ボランティアセンター

〔期間〕 平成24年7月26日(木)～28日(土)

〔派遣職員数〕 1チーム 2人

② 八女市災害ボランティアセンター(星野支所)

〔期間〕 平成24年7月27日(金)～29日(日)

〔派遣職員数〕 1チーム 2人

③ 八女市災害ボランティアセンター(立花支所)

〔期間〕 平成24年8月1日(水)～26日(日)

〔派遣職員数〕 4チーム 8人

8 会務の運営

(1) 理事会の開催

実施日	出席者数	審議事項等
第169回 平成24年5月1日(火)	16人	〈審議事項〉 ・ 評議員の委嘱について
第170回 平成24年5月29日(火)	19人	〈審議事項〉 ・ 平成23年度事業報告 ・ 平成23年度一般会計決算 ・ 平成23年度収益事業特別会計決算 ・ 評議員の委嘱について
第171回 平成24年7月3日(火)	16人	〈審議事項〉 ・ 評議員の委嘱について
第172回 平成24年11月9日(金)	15人	〈審議事項〉 ・ 評議員の委嘱について

第173回 平成25年3月28日(木)	20人	〈審議事項〉 <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度一般会計資金収支補正予算案 平成25年度事業計画案 平成25年度一般会計資金収支予算案 平成25年度収益事業特別会計資金収支予算案 定款の一部変更案 職員就業規則の一部改正案 諸規程の一部改正及び廃止案 福岡市社会福祉協議会起動プラン案
------------------------	-----	--

(2) 評議員会の開催

実施日	出席者数	審議事項等
第166回 平成24年5月1日(火)	49人	〈審議事項〉 <ul style="list-style-type: none"> 理事の選任について 監事の選任について
第167回 平成24年5月29日(火)	48人	〈審議事項〉 <ul style="list-style-type: none"> 平成23年度事業報告 平成23年度一般会計決算 平成23年度収益事業特別会計決算 理事の選任について
第168回 平成24年7月3日(火)	51人	〈審議事項〉 <ul style="list-style-type: none"> 理事の選任について
第169回 平成25年3月28日(木)	56人	〈審議事項〉 <ul style="list-style-type: none"> 平成24年度一般会計資金収支補正予算案 平成25年度事業計画案 平成25年度一般会計資金収支予算案 平成25年度収益事業特別会計資金収支予算案 定款の一部変更案 副会長の選任 福岡市社会福祉協議会起動プラン案

(3) 監査の実施

実施日	出席者数	監査事項等
平成24年5月15日(火)	2人	業務執行の状況及び財産の状況を監査

【別表1】

〔福岡市民間社会福祉事業従事職員福利厚生共済制度事業実施状況〕

(1) 給付事業

内 容		決 算 額	
種 別	単価 (円)	件数	金 額 (円)
結婚祝金	30,000	120	3,600,000
出産祝金	30,000	131	3,930,000
入学祝金	30,000	131	3,930,000
義務教育修了祝金	30,000	79	2,370,000
死亡見舞金		48	1,498,000
本人	100,000	1	100,000
被扶養者	70,000	4	280,000
その他	26,000	43	1,118,000
傷病見舞金	40,000	12	480,000
災害見舞金		0	0
全焼(壊)	100,000	0	0
半焼(壊)	70,000	0	0
その他	30,000	0	0
特別結婚祝金	30,000	12	360,000
小 計		533	16,168,000
退会一時金	支給率で算出	604	60,389,134
合 計		1,137	76,557,134

(2) 貸付事業

内 容		決 算 額	
種 別	貸付限度額 (円)	件数	金 額 (円)
生活資金		9	1,440,000
5年未満	120,000	2	240,000
5年以上	150,000	4	600,000
10年以上	200,000	3	600,000
慶弔資金	250,000	0	0
医療資金	250,000	1	250,000
入学資金		3	1,500,000
高 校	250,000	0	0
大 学	500,000	3	1,500,000
罹災資金	500,000	0	0
合 計		13	3,190,000

(3) 長期加入職員記念品贈呈事業

区 分		決 算 額 (円)	
加入期間	記念品額 (円)	件数	金 額
5年	5,000	324	1,620,000
10年	10,000	115	1,150,000
15年	10,000	68	680,000
20年	15,000	31	465,000
25年	15,000	13	195,000
30年	20,000	7	140,000
35年	20,000	6	120,000
送 料			64,050
合 計		564	4,434,050

(4) 保 養 所 事 業

内 容		決 算 額 (円)	
区 分	補助額 (円)	件数	金 額
大 人	2,500	74	185,000
小 人	1,200	7	8,400
合 計		81	193,400

(5) 文 化 体 育 事 業

内 容		決 算 額 (円)	
区 分	補助額 (円) 等	件数	金 額
文化鑑賞引換券補助	3,000	4,218	9,940,200
映画鑑賞補助	費用の一部	8,825	2,124,160
観劇補助	費用の約1/3	236	1,380,000
プロ野球観戦補助	費用の約1/3	408	764,238
Jリーグ観戦補助	費用の約1/3	40	55,000
海浜プール利用補助	費用の一部	794	460,300
スポーツクラブ利用補助	費用の一部	28	278,600
合 計		14,549	15,002,498

【別表 2】

〔福岡市市民福祉プラザ 利用状況〕

区 分		利用状況		
貸 出 施 設	ふくふくホール	利 用 日 数	270 日	
		利 用 者 数	43,096 人	
	会議室（3室）	利 用 日 数	983 日	
		利 用 者 数	40,832 人	
	研修室（7室）	利 用 日 数	2,238 日	
		利 用 者 数	99,156 人	
	和室・実習室（7室）	利 用 日 数	1,747 日	
		利 用 者 数	48,975 人	
	交流ひろば	利 用 日 数	273 日	
		利 用 者 数	8,954 人	
	計	利 用 日 数	5,511 日	
		利 用 者 数	241,013 人	
	そ の 他 の 施 設	福祉用具展示場	利 用 者 数	25,479 人
		視察・施設見学	団 体 数	65 団体
利 用 者 数			1,813 人	
ボランティアルーム等		利 用 件 数	3,167 件	
		利 用 者 数	16,178 人	
福祉図書・情報室		開 室 日 数	340 日	
		利 用 者 数	38,383 人	
		登 録 者 数	458 人	
		貸 出 冊 ・ 本 数	12,214 冊	
		対 面 朗 読	493 人	
計	利 用 者 数	81,853 人		
利 用 者 総 数		322,866 人		
開 館 日 数		346 日		
1 日 平 均 利 用 者 数		933 人		